

## 2020年度 地域連携活動報告書

連携先名称：ワタミ株式会社

協定締結日：2021/3/12

活動状況：継続中

連携先窓口：ワタミオーガニックランド(株)代表取締役 小出様

活動資金：アイテムを選択してください。

担当教員（所属）：上岡美保（食農）

活動体制（単位）：大学

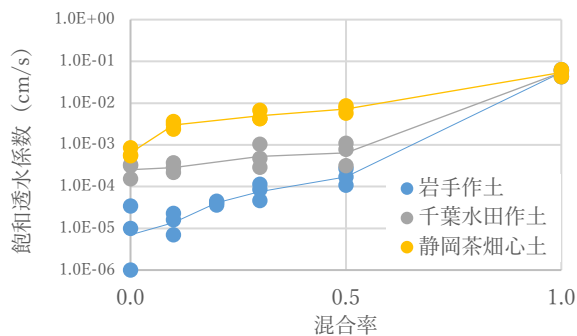
関連教員（所属）：藤川智紀（創成）、上岡美保（食農）、望月洋孝（食農）

活動目的：

- 1.有機農業テーマパーク「ワタミオーガニックランド」（岩手県陸前高田市）事業に関する事項
- 2.農業及び関連産業の活性化に向けた事項
- 3.人材育成に関する事項
- 4.その他

活動内容・成果：

1. ワタミオーガニックランドの一部で見られる土壤の排水不良を解消するために、土壤改良材を用いた排水改良について検討した。地域でゴミ処理の際に排出される“溶融スラグ”を土壤改良材として用いたところ、室内実験によって、溶融スラグを混合することでオーガニックランドの土壤の透水性（水はけ）をはじめとする理化学性が向上することを明らかにした。



図中の岩手作土がワタミオーガニックランドの土

スラグの混合率が上がる（混合する量が増える）と飽和透水係数の値が増加し、水はけがよくなることが分かる

2. 現地でのワタミオーガニックランド関係者との意見交換（商品開発、オーガニックランド建設に向けたオーガニックランドのあり方と地元農業・食品産業との関連）、CAMOCY 関係者との意見交換他。

今後、地元農産品を利用した商品開発やオーガニックランドとの関連商品をどのようにクリエイティブしていくかについて、前向きな意見交換ができたものとする。

3. 国際食農科学科食農教育研究室学生の研修の実施（CAMOCY お披露目会への参加、現地視察、住民交流、関係者との意見交換）。2020年12月12日～13日に教員2名（上岡・望月）と学生10名が訪問。

実際に現地に訪問することで、震災後の陸前高田市の現状の一端を把握することができた。それにより、復興のためにオーガニックランドの建設の持つ意味、地元農林漁業が今後復興にどう関わるべきか、現地住民やキーマンの考えなど、災害からの復興と商品開発について、幅広く学生が学ぶことができたのは人材育成の面でも大きな成果である。

#### 課題・改善点：

上記1.については、実際の農地において、より高い排水改良効果を得るために溶融スラグの混合方法や農地の整備、管理方法について解明することが今後の課題となる。また時間の経過に伴う排水改良効果の持続性についても検証することが必要である。

上記3.については、訪問後、2月にワタミ・陸前高田フェアの開催を予定していたが、緊急事態宣言発令により、開催を断念せざるを得なかった。今後何らかの形で、現地の学びに関連する取り組みができるように考えたい。

